

祈りの友 第202号

2024年12月

「CPC (クリスマス・パーティクラブ) の重要性」



「一わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。」
ヨハネ 8 章 12 節 (新改訳 2017)

クリスマスは誰のためにあるのでしょうか。子どもを含むすべての人です。今年のコピーの教材は、「いのちの光」です。テーマは、光です。全てのプログラムに光が出てきます。

聖書全体から光と闇について見ていくと、CPC がいかに重要かが分かります。神さまは 6 日でこの世界を造られました。神さまが何もない闇から、最初に造られたのは光でした。4 日目に造られたのは、太陽、月、星、季節でした。最後に造られたのは、神のかたちに似せて造られた人間でした。すべてを造られた後、神さまが造られたものを見られた時、「見よ。それは非常に良かった」と言われました。この時点では、夜はありましたが、闇はありませんでした。世界は光輝いていました。神さまと人間の関係も非常に良かったのです。

しかし創世記 3 章に入ると、最初の人アダムとエバが罪を犯し、罪と死という闇が入り、神さまと人間の関係も「非常に良かった」から、「非常に悪い」ものになりました。神さまと生まれながらの人間、子どもの中に、罪の仕切りができて、関係も交わりもなくなってしまいました。

CPC がなぜ重要であるかの第一の理由は、子どもが罪と死の闇の中にいるからです。ローマ 3:23「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」子どもも、罪のゆえに、神さまからの栄光、光を受けることができなくなっているのです。罪の闇の中に、

また死の恐れの中で生きているのです。

でも、神さまは、罪と死の闇の中にいる私たちを愛して、神のひとり子、救い主を送ってくださいました。それがクリスマスなのです。

第二の理由は、イエスさまが光だからです。クリスマスのお話で光が出てくるのは、ヨハネ 1 章です。4 節「この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。」5 節「光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。」9 節「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。」子どもにクリスマスを通して、イエスさまが光であることを教える必要があります。

イエスさまが宣教を始められた時に、光が出てきました。マタイ 4:16 には、「闇の中に住んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が昇る。」そして、イエスさま自身、ヨハネ 8:12 で、世の光だと言われています。やみを追い払う方法は、光を入れることです。そうすれば、闇は自然になくなります。イエスさまを心に信じ受け入れるなら、闇は追い出されるのです。CPC をすることによって、子どもたちはイエスさまを信じ、罪の赦しを受け、死に勝利する永遠の命をいただく機会を与えられます。私たちはそれを提供することができるのです。

第三の理由は、子どもをイエスさまのところに連れていく働きだからです。ただイエスさまが光であると紹介するだけでは、子どもは闇の中のままです。イエスさまのところに連れて来て、光なるイエスさまを信じるよう助け導く必要があります。ヨハネ 3 章 20、21 を読むと、光のもとに来ない者と、来る者について語られています。「悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。しかし、真理を行う者は、その行いが神にあってなされたことが明らかになるように、光の方に来る。」イエ

スさまは光のもとに来る者がいると言われて
います。

ですから、私たちは主から遣わされて子
どもたちのところへ行く必要があるのです。
使徒 26：18 では、「それは彼らの目を開い
て、闇から光に、サタンの支配から神に立ち
返らせ、こうしてわたしを信じる信仰によっ
て、彼らが罪の赦しを得て、聖なるものとされ
人々とともに相続にあずかるためである。」子
どもたちが、闇から光に移されるように、私た
ちも遣わされて行きましょう。

スポルジョンの「朝ごとに」の中の「その
子をわたしのところに連れてきなさい」という
マルコ 9:19 からのメッセージで学んだことが
あります。イエスさまは、弟子たちには癒すこ
とができなかった霊にとりつかれている子ど
もを、わたしのところに連れてきなさいと言
われました。聖書を読めば分かりますが、
子どもはとても悲惨な状況にいました。幼い
ころから、霊は何度も火の中や水の中に投げ
込んで殺そうとしました。私たちの周りの子ど
もは、ここまで悲惨ではないと思いますが、
先ほど学んだように子どもにも罪があり、
霊的に死んで、闇の中を歩んでいます。だか
らイエスさまは、その子をわたしのところに連
れてきなさいと言われるのです。イエスさま
のもとに連れて行って救われない子どもは
いません。そして、それは早ければ早いほど
良いのです。またスポルジョンはある説教の
中で、こうも言っています。「たとえ 5 才の子
どもでも、正しく教えさえすれば、おとな同様
に信じて新生することができる。」たとえ 5 才
の子どもでもです。子どもをイエスさまのと
ころに連れて行くのに早すぎることはありません。
罪が分かり、イエスさまがその罪のため
に死んでくださったと分かる年齢に達してい
たら早い方が良いのです。子どもをイエス
さまのところに連れて行くとは、すでに救われ
た私たちが、その子にイエスキリストを紹
介し、十字架と復活の救いを知らせ、イエス
さまを自分の救い主と信じるように導くこと

す。罪と死の闇の中にいる子どもたちを、光
であるイエスさまのところに連れて行きまし
ょう。光が入れば、闇は追い出されるのです。
イエスさまは、その子をわたしのところに連
れてきなさいと言われています。

最後に、知り合いの牧師の証なのですが、
ある寒い日、その先生は明日の集会のこと
で思い悩み眠ることができず、ベッドから起
きてスーツに着替えて教会に祈りに行きました。
会堂で歩き回りながら明日の集会について
祈っていました。深夜の 2 時を過ぎた頃、
突然教会のインターホンがなりました。急い
で玄関に行くと、髪を金髪に染めた高校生く
らいの男性が立っていました。先生は、その
地域は治安が良い所ではなかったので、
不安をおぼえながら、「こんな時間にどうした
んですか？」と話しかけました。「どうしてい
いかわからない」とその子は答えました。
深刻な顔で言うので、ただ事ではないと感じ、
その子を教会の中に招き入れました。会堂に
入って明るい中で見ると、その子は、大事そ
うに布に包んだものを抱えていました。その
布を開くと中には壊れたマリヤ像が入ってい
ました。その直後、「おばあちゃんからもら
った大切な物で、さっき壊してしまってどう
していいのかわからないんです」と言いま
した。先生は、そのマリヤ像から本当の神さ
まを紹介しました。そしてその子は、本当
の神さまに出会う事が出来ました。

この証しから 3 つのことを学ぶことができ
ます。第一にその先生は準備ができていま
した。寝巻ではなくスーツを着て教会にいま
した。第二に、おばあちゃんがその子のため
に祈っていました。第三に神さまの方では
すでに準備が出来ています。

皆さんは準備が出来ているでしょうか？
このクリスマスに一人でも多くの子どもが、
罪と死の闇から、光であるイエスさまを信
じて、光の中に入れられるよう祈りつつ準
備をしていきましょう。

荒川 裕介 (日本 C E F スタッフ)